

【街中を歩く馬】



現在の出逢い橋を下った左側（旧キャトル屋外駐車場）には、宮古米協精米工場があった。この精米工場では、荷車を引っ張るために馬が飼われていた。精米された米の入った米俵は、この馬によって街中に運搬された。よって、メイン通りであった末広町を馬が歩いている姿は日常的に見られた。また、馬の糞が路上に落ちていることも珍しい光景ではなかった。



【鮭のふ化場】



津軽石にある鮭のふ化場。50年間でふ化場の様子は、大きく様変わりした。

＜ふ化場で育てていた卵の数＞

50年前・・・ 5000万粒

現在・・・ 1億2000万粒

しかし、近年は地球温暖化の影響等で、鮭の漁獲量は著しく低下しており、地域産業の問題の1つとなっている。

【映画館】

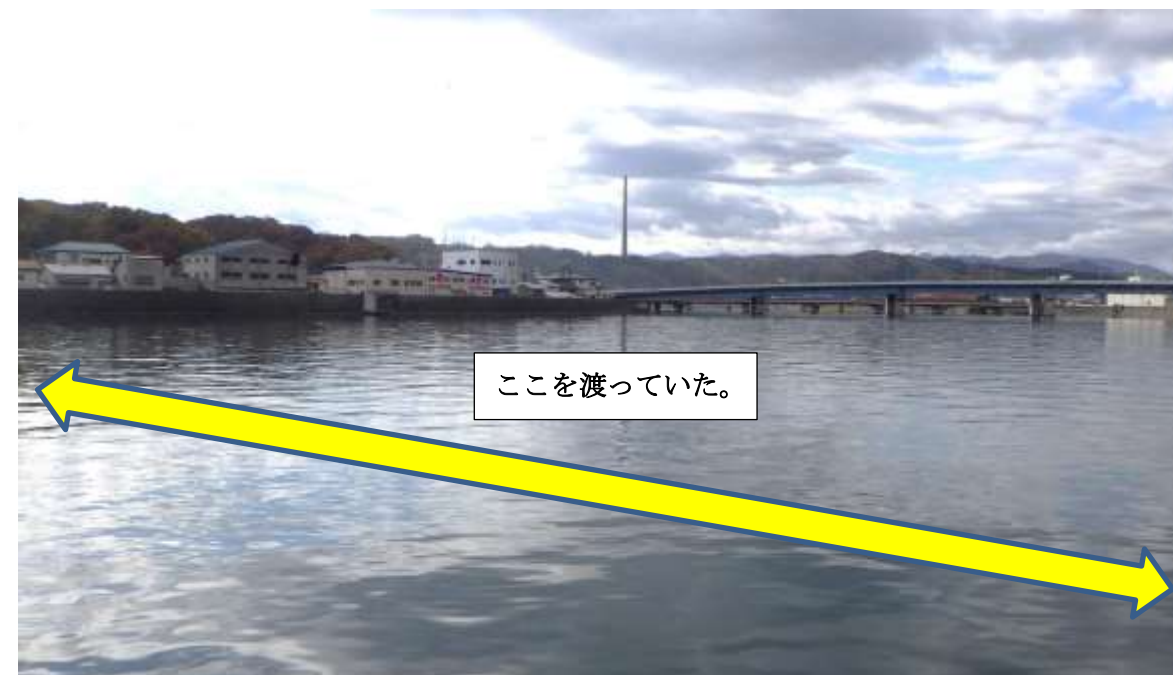


50年前、テレビの民放放送が1、2局しかなかった市民にとっては、映画鑑賞は楽しい身近な娯楽の1つだった。市内には、東映映画館（栄町）、国際映画館（大通り）、宮古館（末広町）、第1トキワ座（築地）、第2トキワ座（中央通り）、太陽館（鯉ヶ崎）と、6つもの映画館があった。特に、東映映画館と国際映画館では、小中学生向けの映画も上映しており、長期休業中に子供会単位で鑑賞しに行くなど、子供達に大人気であった。

【渡し船】



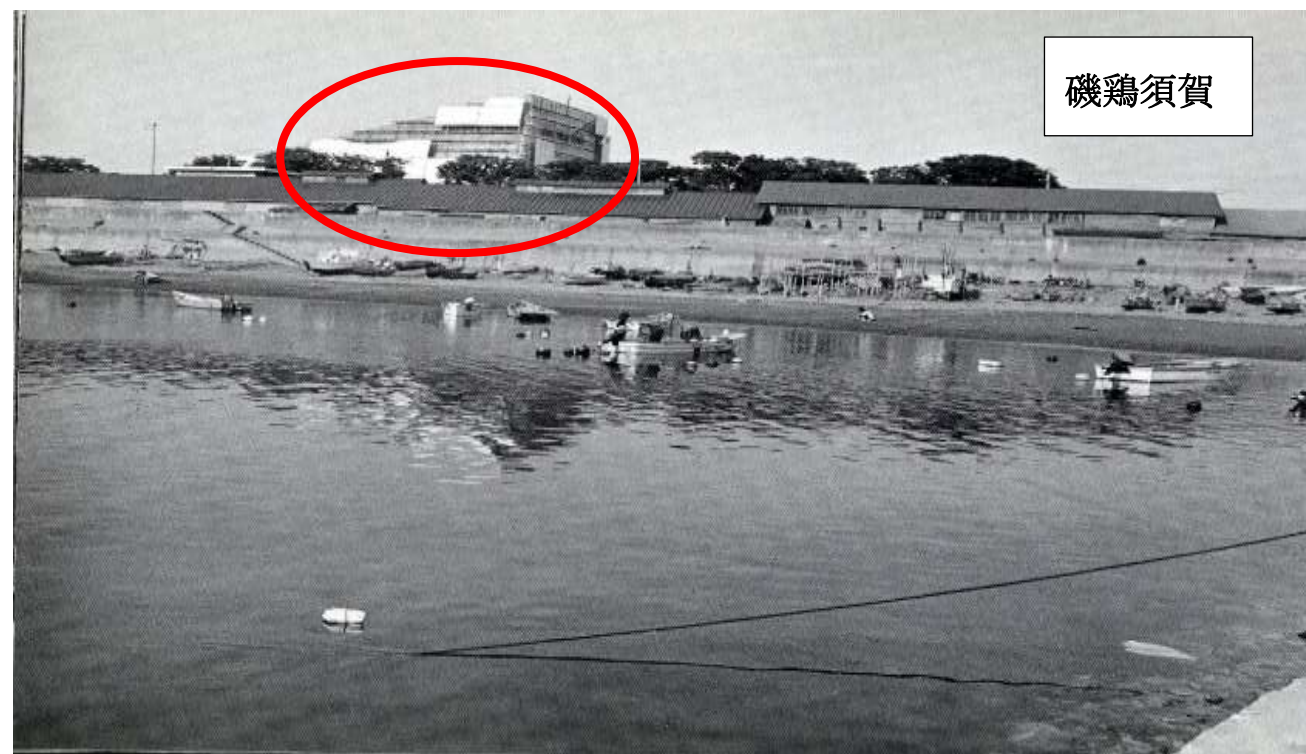
50年前は、現在より自家用自動車の保有率が低く、移動手段が徒歩や自転車に頼る家庭も少なくなかった。そんな家庭の救いになったのが、渡し船。「築地⇄藤原」を手漕ぎ船で渡ることができた。代金は、数十円だったと記憶している。



【宮古の海岸線】



藤原須賀



磯鶏須賀

50年前の藤原～磯鶏の海岸線は、「藤原須賀」「磯鶏須賀」と呼ばれ、砂浜の海岸線がずっと続いており、夏には多くの海水浴客でにぎわった。ちなみに、丸枠は当時建設中だった市民文化会館。その後、埋め立て工事が急ピッチで進められ、海岸線の様相は一変した。1992年（平成4年）の三陸博覧会まで、小金浜、鯛浜、藤の川海岸の3つの海水浴場が残っていたが、博覧会開催のためにその海岸も埋め立てられ、現在は、藤の川海岸のみが海水浴場として残っている。



藤原防潮堤



藤原埠頭



藤の川海岸



旧フェリー発着所

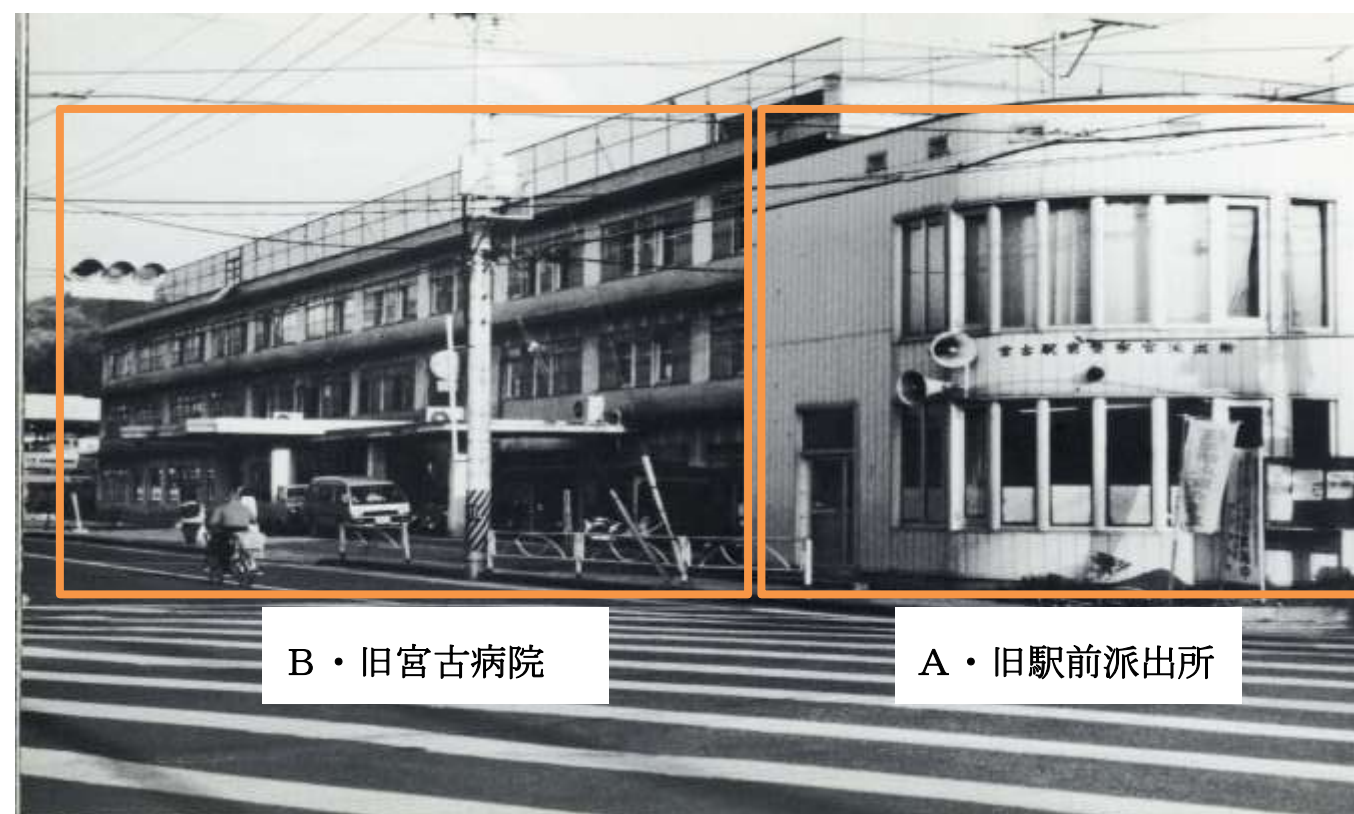


ヨットハーバー

【宮古駅前】駅前ロータリー



50年前のロータリーには、木造の案内所があった。写真は、強い台風通過後のもので、いくつかの施設が崩壊している。



【宮古駅前】駅前交差点



駅前駐車場



現宮古病院

50年前の宮古駅前交差点。Aの建物は、宮古駅前派出所。曲線を描いたおしゃれな建物で、ガラス張りが印象的な建物であった。現在は、西側に200mほど移転した場所にある。跡地は、有料駐車場になっている。
Bの建物は、旧宮古病院。駐車場が狭く、不便な面もあった。1992年（平成4年）建物の老朽化から、現在の宮古病院に移転した。現在、跡地は、宮古郵便局本局となっている。

【宮古魚市場】



・現在は、Aの位置に「宮古魚市場があるが、50年前は、Bの位置にあった。秋にはサンマ漁、冬にはサケ、マス漁船が全国から集結し、とてもにぎわっていた。写真は、出航するサンマ船を家族や同僚が見送っている写真。



【鰒ヶ崎の銭湯】

地元民はもちろん、サンマ漁やサケ、マス漁の後、帰港された漁師の方々の疲れを癒す場所の1つが銭湯だった。現在、鰒ヶ崎に営業している銭湯はないが、震災までは、七滝湯、不動園が営業していた。50年前は、下の5つもの銭湯があった。

- ・七滝湯（下町）
- ・弁天湯（下町）
- ・不動園（日影町）
- ・上の湯
- ・不動園分家（熊野町）



【宮古市清掃工場】



旧清掃工場



現清掃工場

旧宮古市清掃工場は、国道45号宮古第2トンネル手前の崎山にあった。1日に処理できる燃やせるゴミの量は120tであった。1994年（平成6年）に、現在の小山田にある清掃工場に移転した。現在の清掃工場の1日に処理できる燃やせるゴミの量は186tで、旧清掃工場に比べて66tアップしている。

現在、旧清掃工場は、粗大ゴミ等で出されたゴミの中から再生可能なタンス、机、棚等が保管される「再生品ストックヤード」として活用されており、年1回、9～10月に「再生品展示会」が開かれ、一般市民に無料で提供されている。正に、リユースが実践化されている。



再生品ストックヤード



再生品展示会

【宮古市役所】

昭和30年代



火災により全焼

50年前の宮古市役所。当時としては珍しいモダンな造りで、県内外からも多くの観光客が訪れていた。しかし、1968年（昭和43年）に火災に見舞われ、全焼。4年後に旧市役所が業務を始めた。



前宮古市役所



東日本大震災



イーストピアみやこ（現市役所）



うみどり公園

1972年（昭和47年）から業務開始。しかし、2011年（平成23年）3月11日、東日本大震災の津波によって被災。1階は壊滅状態となった。その後、復旧し、歩道橋を挟んだ分庁舎とともに業務を再開したが、利用する市民の安全確保の観点から、2018年（平成30年）10月1日に現在の駅裏に移転。名称は、市民による公募で「イーストピアみやこ」と名付けられた。跡地は、「うみどり公園」として、市民に利用されている。

宮古市立鰐ヶ崎小学校（50年前）



<元宮古第二中学校PTA会長の早野幸雄さんのお話から>

- ・当時の児童数は、約1000人。1学年4クラスで、1学級の数45名前後であった。校舎は、Aを除いて、木造校舎。
- ・A・・・ブロック校舎。1階は2年生、2階は6年生の教室であった。（現在の学童裏の駐車場付近）
- ・B・・・校庭隅には防火用水の池（教室2つ分くらいの大きさ）があった。フナ、ドジョウ、タガメ、ゲンゴロウが捕れ、釣りを楽しんだ記憶がある。
- ・C・・・校舎のこの辺に給食室があった。
- ・D・・・講堂（体育館）木造の作りであった。
- ・E・・・学校園（現在のプール、児童公園を含む）
- ・F・・・4年生の教室（講堂から学校園を挟んで渡り板があり、4年生教室へとつながっていた。）
- ・プールはなく、水泳の学習は蛸の浜で行った。

<鰐ヶ崎小学校のあゆみ>

- ・明治8年9月に公立鰐ヶ崎小学校として開校。
- ・明治22年10月に宮古小学校から分離独立して、町立鰐ヶ崎尋常小学校となる。
- ・大正13年に現在の場所に校舎が完成。（写真右）
- ・昭和23年に学校給食が開始。
- ・昭和48年に現在の新校舎完成。

【参考文献「鰐ヶ崎小学校 百年のあゆみ」】

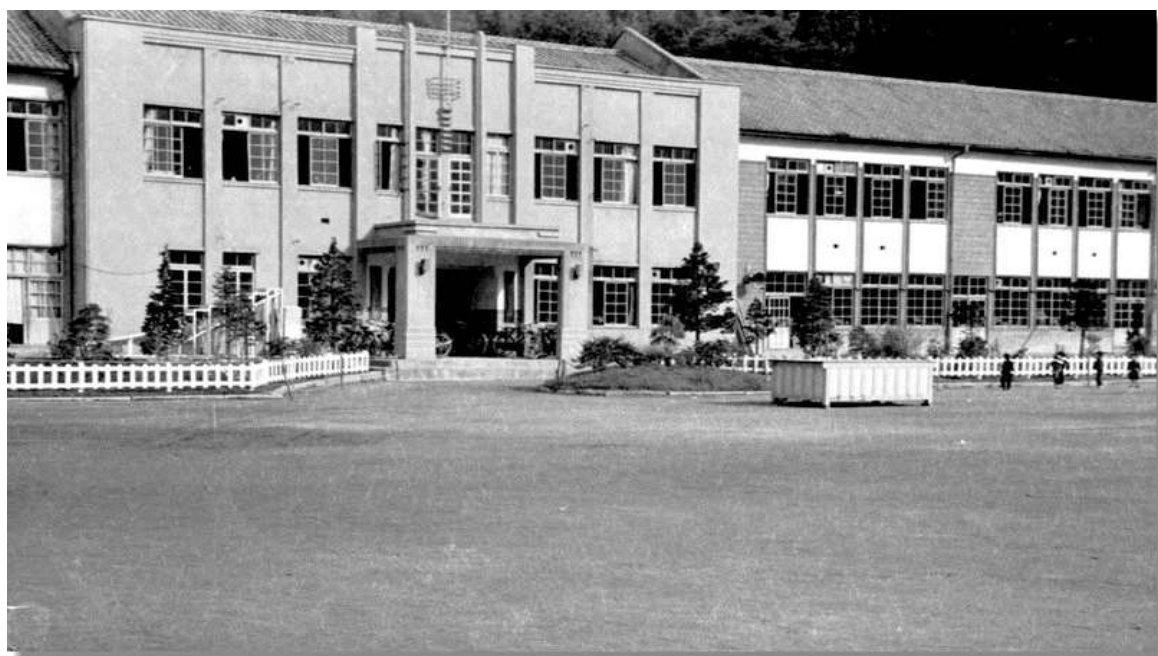
現在の鰐ヶ崎小学校



昭和9年の運動会

昭和30年の80周年の航空写真

【宮古小学校】



50年前の宮古小学校。木造の2階建ての校舎で、校舎図にあるように、大きく2つの棟からできていた。校庭は、中庭と呼ばれた低学年用の校庭と、第2校庭の中高学年の2つがあった。(赤枠)

児童数は、約1200名。1学年5学級(1学級約40名。)昭和49年度の卒業生は6学級であった。校歌の2番にある「子等は二千を遠くこし」から、もっと昔は児童数二千人を超していたと思われる。

冬の暖房は、薪ストーブ。用務員さんが割ってくれた薪は、各教室の外に並べられ、それを教室に運ぶ仕事は、子供の仕事であった。

校舎の間には、1教室程度の大きさの池があり、フナ、ドジョウ、タガメなど、いろいろな生き物がいた。



Aの写真は、プール。現在の職員駐車場の場所にあった。市内小学生水泳記録会は、毎年、このプールで行われた。プールサイドが斜面になっているところが特徴的なプールであった。Bは、当時「新校舎」と呼ばれ、中高学年にならないと入れない、低学年あこがれの校舎であった。数年前に取り壊されてしまった。



左の写真は、体育館。現在と同じ場所にあった。



左の絵は、「永田商店」。現在の校門付近にあり、文房具や駄菓子などが売られていて、当時の小学生に大人気の店であった。

【宮古第一中学校】



同一方向から見た、旧宮古第一中学校と、現宮古第一中学校。旧校舎は、木造であった。校庭には、バスケットゴールも見える。

丸枠は、八幡様。

新校舎になった昭和40年代後半は、1学年8学級であったが、現在は2学級と生徒数が激減している。



【のど山】



現在の「トマト&オニオン」付近は、八幡様から山つづきの「のど山」というなだらかな山だった。赤枠は、小百合幼稚園の鐘塔。

黄枠は、当時ののど山にあった「ゴルフネット」。現在も、八幡様横、バイパス横に放置されたままになっている。

【国道４５号】



旧国道４５号（日影坂付近）



現国道４５号（崎山付近）

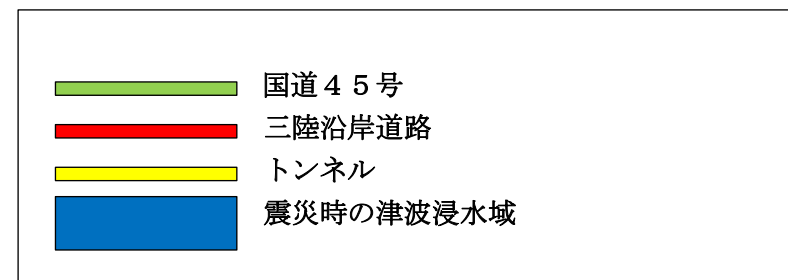


東日本大震災で被災した国道４５号（田老付近）

「八戸⇄仙台」を結ぶ国道４５号は、１９５３年（昭和２８年）５月１８日に開通した。しかし、急カーブや急坂が多く、幾度となく、場所を移転するなどして整備が行われた。２０１１年３月１１日の東日本大震災の際に津波によって、大量の瓦礫が国道４５号に流れ込み、物流、人流が麻痺した。この反省点に立って、三陸沿岸道路（復興道路）の建設が急ピッチで進められ、２０２１年（令和３年）１２月１８日に「八戸⇄仙台」の全線が開通した。この道路の開通によって、「八戸⇄仙台」の所領時間が５時間から３時間３０分に短縮されただけでなく、非常時の安全な流通、人命の確保に大きく寄与している。

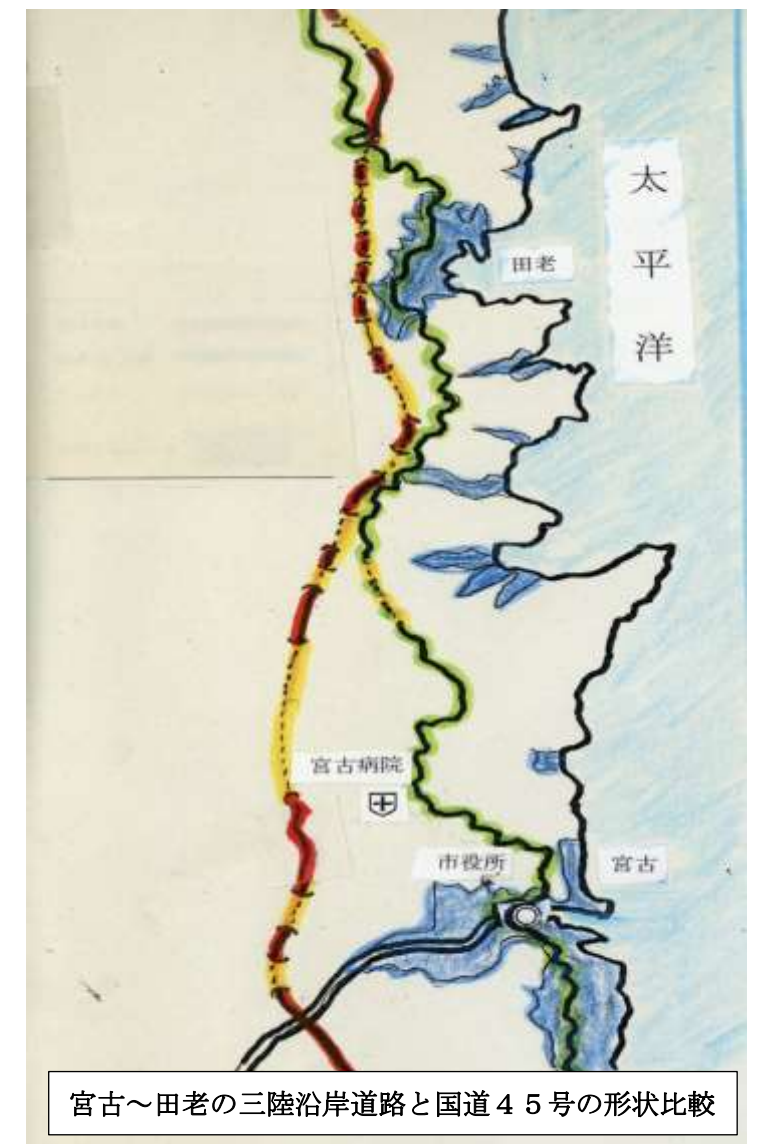


三陸沿岸道路（復興道路）



三陸沿岸道路の高架橋（普代村付近）

三陸沿岸道路は、自動車専用道路である。国道４５号に比べてトンネルが多く、直線的な造りになっている。右の地図にあるように一部が津波浸水域を通過しているが、それを右の写真のように高さを補っている。



宮古～田老の三陸沿岸道路と国道４５号の形状比較

【国道106号】



牧庵鞭牛



すいさび



あさり



つるはし



げんのう



人力車による移動

1



荷馬車による移動



旧国道106号（墓目付近）



狭かった道幅



国道106号の開通式



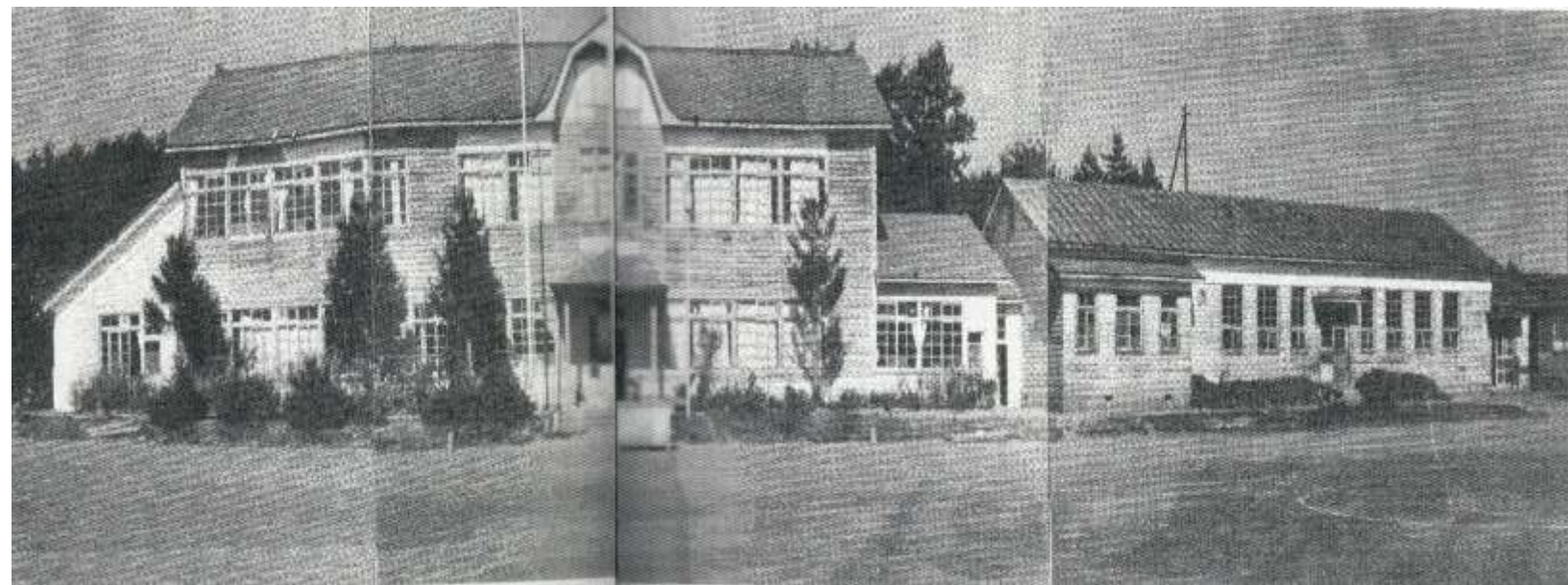
現在の国道106号



復興支援道路

約300年前、牧庵鞭牛によって開通した閉伊街道。掘削に使われた道具は、つるはし、げんのうなどの原始的な物で工事は困難を極めた。しかし、閉伊街道の開通により、内陸からの食糧の運搬などが可能となった。しかし、運搬は人力や荷馬車によるものであった。その後、旧国道106号が開通したものの、道幅が狭い上に、急カーブが多く、舗装もされていなかった。旧道の整備が昭和41年～53年の12年間をかけて行われ、現在の国道106号が昭和53年に開通した。しかし、2011年3月11日の東日本大震災の際には、道路の崩壊、がけ崩れなどによって、交通が停滞した。その反省点に立って、復興支援道路の整備が進められ、2021年に全線開通。「宮古⇄盛岡」の所要時間が30分以上短縮され、現在に至っている。

【崎山小学校】



30年前の崎山小学校。市内の小学校は、当時と比べ、児童数が激減しているが、崎山小学校は、ほとんど児童数の変化がない。その理由は、下の2つ。

- 1 崎山ニュータウンができ、新しい家がたくさん新築されたため。
- 2 2011年の東日本大震災によって、被災しまった田老地区の方々の多くが崎山に移転したため。

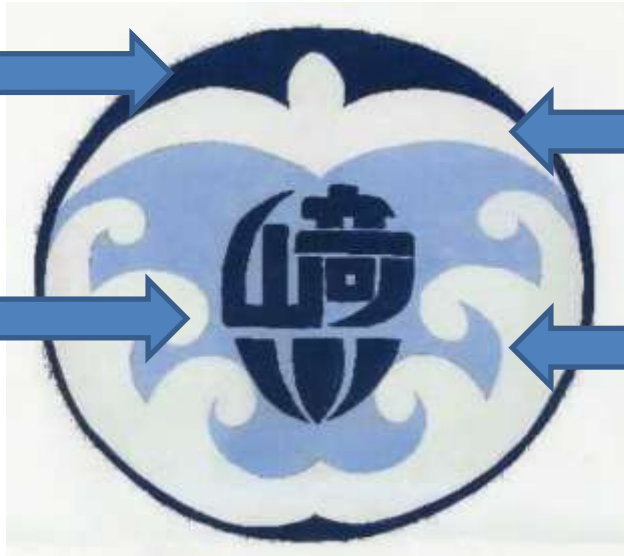
【校歌】

1 遠い道 でこぼこ道を
心ほがらかに のぞみをもって
きょうも はるばるかよいます

この歌詞から、当時の通学路の道路状況は悪く、学区はかなり広がったことがうかがえる。

＜大空＞
無限に広がる希望

＜大海原＞
紫紺の海、広大な海



＜ウミネコ＞
けがれなき美しさ

＜大波＞
たくましさ、力強さ

【崎山中学校】



- ・ Aは、現在の崎山小学校の所在地。
- ・ Bは、現在の崎山中学校の所在地。
- ・ Cは、旧崎山中学校の所在地。40年前に現在の場所に移転した。旧所在地は、現在、「MOLDEC」という工場となっている。
- ・ Dは、当時は牧場であったが、崎山ニュータウンに造成された。



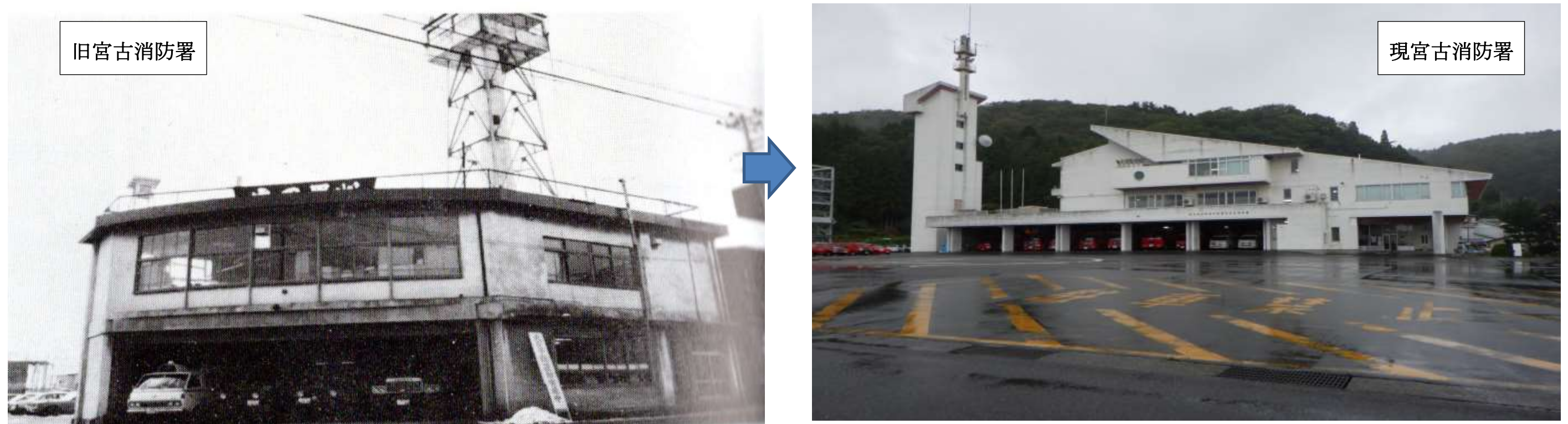
【市立図書館】



市立図書館は、今の場所に移転するまでに5回の引っ越しを繰り返している。

- ① 大正13年9月～昭和28年3月 宮古小学校内に設置（当時は、宮古市ではなく宮古町だったことから「町立図書館」としてスタートした。）
- ② 昭和28年3月～昭和29年5月 築地に移転
- ③ 昭和29年6月～昭和53年10月 保久田に移転（現在のツルハ保久田店向いの駐車場）【写真・A】
- ④ 昭和53年11月～昭和58年3月 宮町に移転（現在のJ Aビル付近）旧裁判所の建物を再利用したかたちで業務開始 【写真・B】
- ⑤ 昭和58年4月～ 現在に至る

【宮古消防署】



旧宮古消防署は、大通り（旧宮古橋から直線200mくらいの所）にあった。火の見櫓が象徴的な建物であった。1984年（昭和59年）に現在の場所に移転し、業務を続けている。

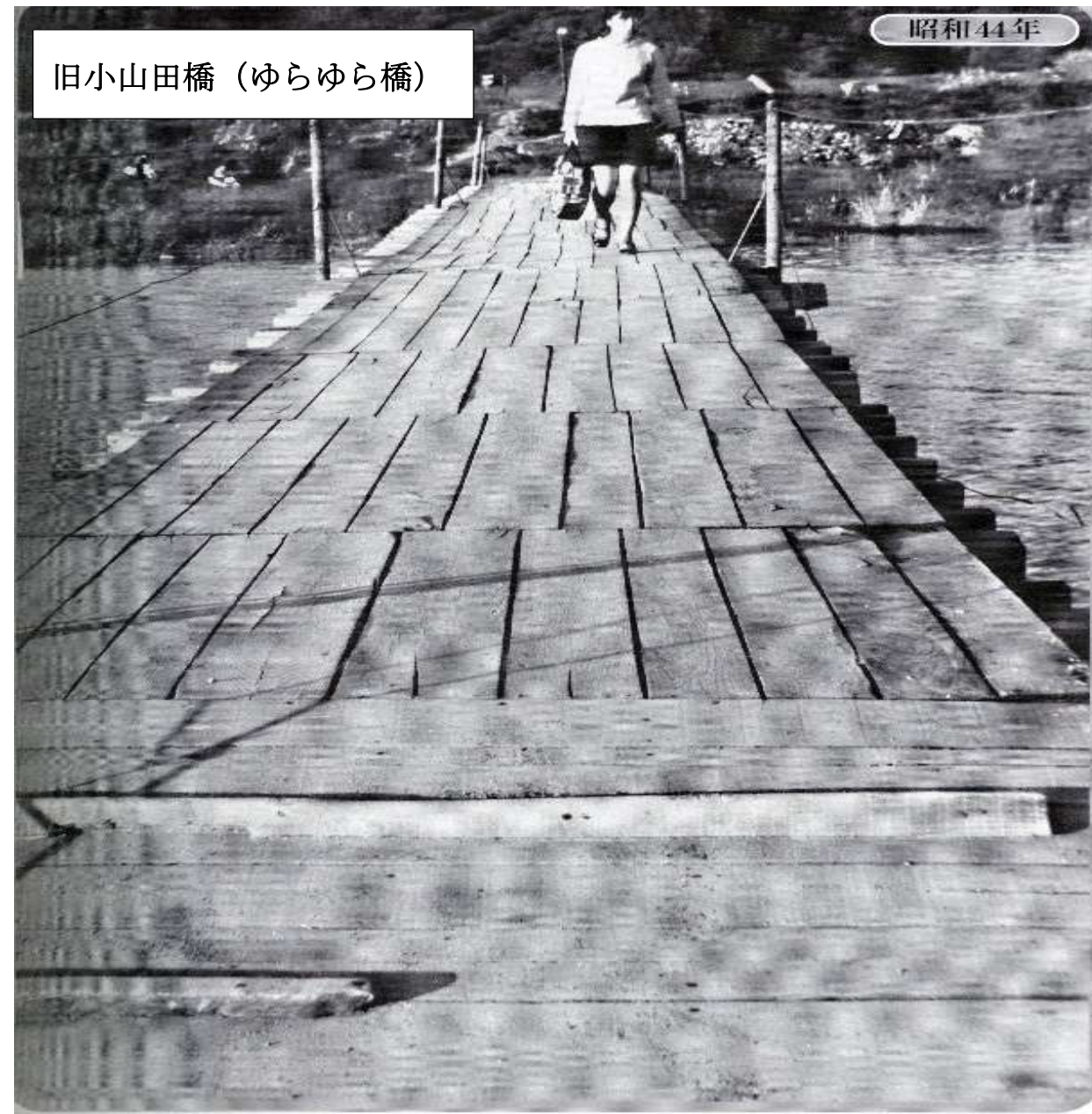
【小山田橋】

小山田橋は、市街地と小山田、磯鶏をつなぎ、市内でも交通量の多い橋の1つである。

50年前の小山田地区は、ラサ工業の工場とそこで働く方々の官舎がある程度で、拓けた地区ではなかった。よって、市街地と小山田地区を結ぶ橋は、さほど重要視されていなかった。当時の小山田橋は、写真のように何枚もの板を組み合わせた簡易的な橋で、もちろん、自動車は通ることができなかった。橋幅は1.5m程度、人が通るとゆらゆらと揺れてしまうことから、「ゆらゆら橋」と呼ばれていた。当時の小中学生では、この橋を自転車で渡ることが度胸の証という肝試しもよく行われた。木造でひ弱な橋であったため、台風等で閉伊川が増水すると崩壊してしまうこともあり、その度に改築された。



旧小山田橋（ゆらゆら橋）



旧小山田橋（ゆらゆら橋）

昭和44年



この写真は、さらに昔の小山田橋と思われる。



現小山田橋

【銅鉱石を運んだロープウェイ】



漁協ビル下の鉄ヶ崎に、今も下のような建物が残っている。

50年前、田老では、たくさんの銅鉱石等が採掘され、たくさんの方が仕事に従事していた。その銅鉱石を運ぶために造られたのが、左下のロープウェイ。このロープウェイは、田老～鉄ヶ崎間の10km以上を結んでいた。左の写真は、その終着駅となった建造物。早野さんのお話によれば、ちゃっかり、このロープウェイに乗り込んで、宮古や田老に向かった人もいたそう。けれども、ある時刻になると電源が切られて止まってしまうロープウェイだったため、人が乗った状態で止まってしまうことも度々。その度に、問題になったこともあったそう。

こうして、運ばれた銅鉱石は、小山田のラサ工業に運ばれて、銅に加工されていた。運搬方法は、船舶と蒸気機関車。そのために、現在の出崎埠頭には「宮古港駅」が設けいた。



銅鉱石を運んだ蒸気機関車

この銅鉱石の一部は、「宮古港駅→光岸地→藤原→小山田→ラサ工業」という経路を経て、蒸気機関車で運ばれ、10円玉の原料となる銅に加工されていた。



銅鉱石を運んだロープウェイ



線路跡（光岸地）



ラサ工業

震災後の瓦礫撤去作業に伴って、線路も撤去されてしまったが、震災前は、築地閉伊川防潮堤沿いに線路跡が残っていた。



銅鉱石

【末広町商店街】



50年前は、マリンコープDORAのような大型百貨店がなかったため、市民の買い物の中心地は、末広町であった。
Aの写真は、夏祭り時の末広町の様子。Bの写真は、7月の七夕祭りの様子である。Cの写真は、夏祭り時の中央通りの様子である。
日常的に、ここまでにぎわっていたわけではないが、少なくとも現在よりはにぎわっていた。



当時、宮古市内にあったスーパーマーケットは、玉木屋（末広町・カラオケ「クレヨン」付近）、マルフジ（向町・「ほっかほっか亭」付近、マルシン（横町・「」付近）、セキカワ（栄町・「旧キャトル横」）の4店舗であった。
シムラ玩具店（向町・「」付近）の2店舗で、子供達に大人気であった。